田中　志子
（たなか・ゆきこ）

利根沼田認知症総合支援センター代表。内科医。平成21年３月群馬大学医学部大学院を卒業。現在は、認知症を主とした老年医学を専門とし、医師としては、日本で初めての認知症介護指導者となる。久屋原町。

街道のことなど、しっかりと掘り下げないといけないのではないのかと考えています。沼田には素晴らしい歴史があるということをしっかりと認識する必要があると思っています。さて、丸山さんの場合は、日本が黎明期のころに山村の産業の中心であったものが、時代の変化により捨て去られ、それを再興しようとしていると思うのですが。

丸山■自分たちは、森の文化を未来へつなぐ作業をしていると思っています。利根町根利の林野庁林業機械化センターや地元の人たちの思いというのでしょうか。行政だけでも住民だけでも立ちゆかないところがある。そんな中で、わたしたちが手を挙げました。わたしたちの仲間にはいろいろな職業に就いて、技術や知識を持った人たちが大勢います。そういう中で年齢や性別も関係なく、それぞれの思いが一つになっている。背景には、歴史や文化を互いに理解しているということがいえると思うんです。すべての物には歴史があって、物語ができているんですよね。そこに、人の心をすごく癒やすものがあったり、感動があると思うんです。

星野■日本の近代化とともに産業振興を進めてきた。その裏では、時代の流れから忘れられてしまったことがある。これを再興しようとする一つの手段として、蒸気機関車などの再生があったと。こういうことになると思います。丸山さんたちが活動をしている利根町根利ですが、ここには、以前、根利山という集落がありました。戦前には、三千人くらいが住んでいたそうです。ここは、栃木県の足尾銅山と密接に関係しているんですね。現在、栃木県では、この足尾銅山の世界遺産登録に向けた活動がされています。丸山さんたちの森林鉄道再生に対する地道な努力が、今後、県境を越えた世界遺産のことにまで広がる可能性もあるわけですね。次に田中(志)さん、先ほどお話をされた回想療法について興味がすごくあるのですが、これについて話していただけますか。

田中(志)■回想療法は、イギリスで始まったものですが、昔を思い出すことで脳がすごく活性化されて気持ちよく過ごせる。さらに、それを若い人たちに話したり伝えることで、いつも面倒を見てもらっているというお年寄りでも、反対に教えるという役割の変う立場になれるという役割の変化が、脳の活性化にとても良いといわれています。これは、愛知県北名古屋市で早くから取り入れられ実践されていますが、東日本で、それも、ぜひ沼田でやりたいと思い、現在、取り組みを始めています。

星野■福祉においても、歴史を回想することが効果があるということはすごいことですね。

田中(志)■普段は何もできない人やそう思われてしまっている人でも、実は、体ではその動作を覚えているものです。今後は、住民ボランティアや介護予防サポーターなどの皆さんに大勢集まっていただいて、自分たちの予防もしながら認知症になった人たちの介護をするというようなことができたらと。また、次世代の子どもたちに対して、歴史やこれからどのようにしていったらいいかというような知恵や技術を教えていただき、そこに地域の拠点ができるといいなと思っています。

星野■次に石田さんですが、池田地区の歴史を考えていくと迦葉山があったりするのですが。

石田■わたしたちの小さいころは、池田地区といえばとにかく迦葉山くらいしかなくて、それはすごいところだなという思いはありました。わたしが、観光農業をしていて一番驚いたことは、新潟県の人たちが本当にたくさん迦葉山に来てくれるんですね。それで、その流れでリンゴやブドウを買っていってくれるんです。そんなことが、自分自身でもとてもびっくりしていて、お膝元のわたしたちよりも他県の人たちの方が、信仰心が厚いのかもしれないということをとても感じています。

星野■現在、本市では、主に首都圏に向けての交流事業を展開していますが、今後、石田さんのお話にもあるように、新潟方面というのも必要になってくると思いますね。すると、本市は東西南北と交流拠点になってくるわけです。このためにも歴史的な背景や基盤をしっかりとしておく必要がありますね。ところで小林さん。白沢町の高平には、うつぶしの森という場所がありますよね。その、うつぶしの森と平出子ども歌舞伎ついてお話ししていただけますか。

小林■うつぶしの森は、新田氏の関係ですよね。新田義宗が祭られているところです。白沢町の歴史上、とても有名なところですね。また、平出子ども歌舞伎は、保存会の皆さんがとても力を入れていて、子どもたちに残そうと頑張っています。子どもたちも大変やる気になっていろいろなところで公演をしているようです。こういった歴史や文化を次の世代に伝えながら大事にしていきたいですね。

石田　裕次郎
（いしだ・ゆうじろう）

平成18年からフルーツランドいけだ会長。ブドウ栽培に従事して20数年。ほかにもこんにゃくや山ウドなどを栽培。仲間と共に広く農業経営に取り組む。奈良町。

星野■昨年は、浅草の浅草寺でも公演をしたんですよね。

小林■そうですね。大成功だったと聞いています。

星野■次に田中(恵)さん。吹割の滝の浮島についてお話をしていただけますか。

田中(恵)■浮島では、春と秋に例祭をしていますが、最盛期には、かなり大勢のお客さんが来ていたらしいです。七・八年前までは。今は、その半分の六万人くらいになっているようですね。毎回、山伏の人たちがお焚き上げをするんです。また、この場所には「竜宮の椀（わん）」という伝説も残っています。

星野■それから、利根町には、老神の大蛇の話などもあります。金井さん、ほかには、何かご存じないですか。

金井■青木・砂川には、人形芝居がありますね。一人使いの。これは沼須と同様のものです。

交流とは、互いの活性化を図るもの

星野■そうすると、皆さんがそれぞれの立場で歴史や文化を大切にして、ネットワークを図ることで何か新しい手立てが見つかる。先ほど、子どもたちの話が出ましたが、地域の歴史や文化を学ぶことで地域を愛したり誇りを持てる。そういうことにつながっていくと思います。それで、前にもお話ししましたが、今、本市では首都圏地域との交流事業を進めています。それぞれの負の部分を補い合い、活性化を図るということです。交流に関して、皆さんからのお話を聞かせてください。

金井■沼田はまさに街道の拠点です。そういう意味でもいろいろなところと交流していく必要がありますし、市民の皆さんはもとより、ほかの人たちも、沼田にはこういう歴史や文化があるんだということを理解していただきたいと思います。そして、みんなが自分の意識を高めるためにも、交流事業を進めて欲しいと思いますね。それから、少し付け加えると、利根沼田には二つの観音札所があります。要するに「お遍路さん」のことです。一つは「沼田坂東三十三観音札所」、二つ目は「沼田横堂三十三観音札所」です。合わせて六十六カ所ありますが、実際に整理されているのはその半分くらいで何も残っていないところもあります。そういうところも整理ができれば、もう一度、利根沼田を信仰文化の拠点として訪ね歩く、こういう交流の方法もあると思います。

星野■今のお話は、非常に重要な指摘をしていると思います。要するに、利根沼田は一つだと。ですから、交流を深めるためには今進めているような対外的なことはもちろんですが、この利根沼田という地域が重要なんですね。いわば広域圏単位の内部の交流を進めていくためには、今のようなことがとても重要なポイントになってくるだろうと。しかも、それが沼田を軸にして、利根沼田に波及させることで、もちろん沼田も良くなるけれどもその周りも良くなる。こういった形で広域連携軸ができてくることで、外に向けても柔軟な対応が可能になるのではないかと思います。各自治体単位では弱いものが、連携することで非常に強固なものになるわけですね。では、次に丸山さんお願いします。

丸山■わたしたちは昨年、根利の学校を借りて「森の駅」という事業を行いました。そこでは、森林鉄道に詳しい人たちを呼んで交流をしながら勉強会などを開きました。できれば、今後も継続していき、そこから地域の歴史や文化を発信できるようなことをやっていきたいと考えています。

星野■これも、とても良い発案ですよね。林業の再生、そういったことにもつながってくるのではないかと思います。では、田中(志)さん。

田中(志)■今、本当に少子高齢化社会だからこそ世代間交流をして、子どもたちが、高齢者は大切な人たちなんだということをもっと知る機会を作ってあげたいと思います。それは、学校

丸山　龍一
（まるやま・りゅういち）

よみがえれボールドウィン実行委員会長。金属加工全般をベースに大型鉄道模型などの製作を行っている。丸山製作所社長。沼須町。